

南アフリカ為替週報

2023年7月20日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

<過去2週間の動き>

(7月6日～7月19日)

USD/ZAR: 17.8062～19.1533

ZAR/JPY: 7.46～7.83 (参照値)

過去2週間の南ア・ランド相場は大きく反発。7月13日には約3か月ぶりに対ドル18.0を割り込んでランド高・ドル安が進んだ。7月12日に公表された米6月CPIが市場予想を下回り、グローバルに金利低下・ドル安となったことがランドを含む新興国通貨にとって追い風となった格好だ。ランドの反発は基本的にはドル安の裏返しという側面が大きく、対ユーロ相場での上昇は限られた。また、対円相場では同時期に日銀の金融政策修正観測もあり円高・ドル安が進行し、ランド円相場の上値が抑えられた格好となった。もっとも、植田日銀総裁のハト派スタンスが確認された7月18日以降はドル円が再び140円をうかがう状況となっており、ランド円も押し上げられている。

経済指標では、7月19日に発表された6月分のCPIが注目された。結果は前年同月比+5.4%と、5月分の同+6.3%から減速し、市場予想の同+5.5%を下回った。食料・エネルギーを除いたコアCPIも前年同月比+5.0%と5月分の同+5.2%から低下し、市場予想の同+5.1%を下回った。南アフリカ準備銀行(SARB)はインフレ期待の高進や、ランド安を受けて直近2回の会合では利上げ幅を50bpに拡大していたが、インフレリスクが後退するなか、20日に控える次回金融政策決定会合では利上げ幅を従来通りの25bpに戻すと見られる。ブルームバーグ集計の民間エコノミスト予測でも25bpの追加利上げがコンセンサスとなっているが、27名中9名は現在8.25%の政策金利の据え置きを見込んでいる。短期金利市場の織り込みも五分五分の確率といった状況だ。

声明文ではタカ派姿勢が堅持されそう。SARBのクガニャゴ総裁は6月28日のブルームバーグのインタビューで、「インフレ率がターゲットまで低下し、それが持続するという見通しが立たなければ利下げには転換しない」、「政策金利はより高く、その状態がより長く続く(Higher for longer)と発言しており、市場の早期利下げ観測をけん制している。7月5日の同総裁のインタビューでも早期利下げに前向きな姿勢は見られなかった。

地政学的な話題では、8月に南アフリカで開かれる予定のBRICSの首脳会議に、ロシアのプーチン大統領が対面では欠席し、オンラインで参加すると明らかにしている。プーチン大統領の訪問を巡っては、国際刑事裁判所(ICC)が同氏に逮捕状を出していたことから、出席した場合の南アの対応が注目されていた。この問題がどこまで市場で深刻に受け止められていたかは明らかではないものの、一安心といったところであろう。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	予想*	実績	前回
7/11	12:00	製造業生産(前年比%)	5月	2.5%	2.5%	3.6%
7/13	10:30	鉱物生産量(前年比%)	5月	2.0%	-0.8%	3.2%
7/19	09:00	CPI(前年比%)	6月	5.5%	5.4%	6.3%
	12:00	小売売上高(前年比%)	5月	-1.1%	-1.4%	-1.8%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう2週間の見通し>

(7月20日～8月2日)

USD/ZAR: 17.20～19.50

ZAR/JPY: 7.10～8.10

向こう2週間のランドは一進一退の展開を予想する。引き続き、ランド相場の動向は米国の金融政策をはじめ外部環境の影響が大きいと見られる。7月26日に控える米FOMCでの25bpの追加利上げは完全に織り込まれた格好だが、さらなる利上げの可能性が示唆されるようであれば、米金利上昇・ドル高で反応する可能性がある。国内ではSARBの金融政策の動向が焦点となる。上述の通り、7月20日に控える会合では利上げの有無と共に、SARBが先行きどれだけ高水準の政策金利を維持する姿勢を示すかにも注目したい。

<向こう2週間に発表予定の主要経済指標等>

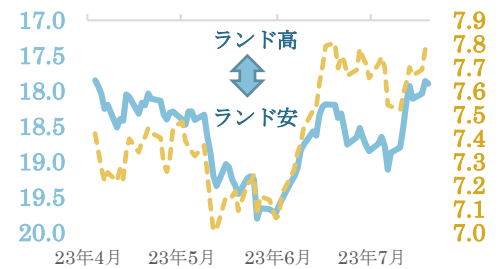
月日	GMT	指標	期間	予想*	実績	前回
7/20		政策金利発表		8.5%		8.25%
7/31	13:00	貿易収支(10億ランド)	6月			10.2b

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

南ア・ランドの推移

実線: 対ドルレート(左軸、逆目盛)

点線: 対円レート(右軸)

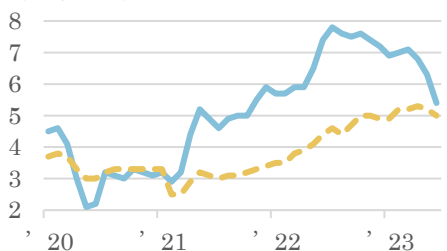


南アフリカ 消費者物価指数(CPI)

実線: ヘッドライン

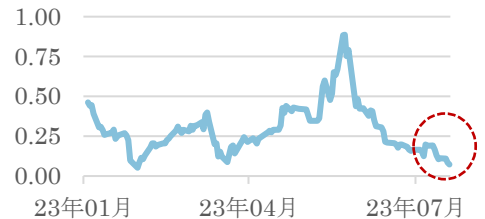
点線: コアCPI

(前年比%)



南アフリカ 2か月後政策金利織り込み

(%ポイント)



* 2か月後スタート期間3か月のフォワードレートから、3か月JIBARを差し引いている。2023年7月19日時点。

(資料:ブルームバーグ)

<文責>

欧州資金部

シニア為替ストラテジスト

中島 将行

masayuki.nakajima@mhcb.co.uk

筆者休暇につき、来週は休刊します。

次回発行は8月3日の予定です。

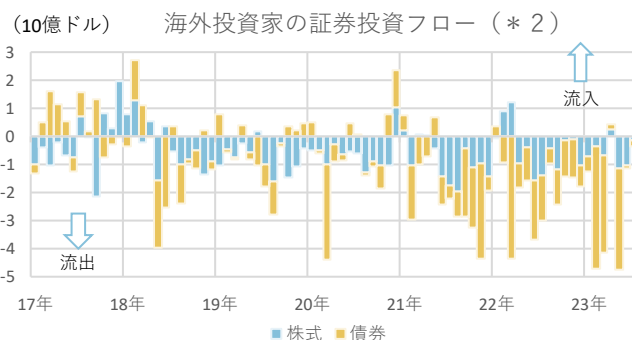
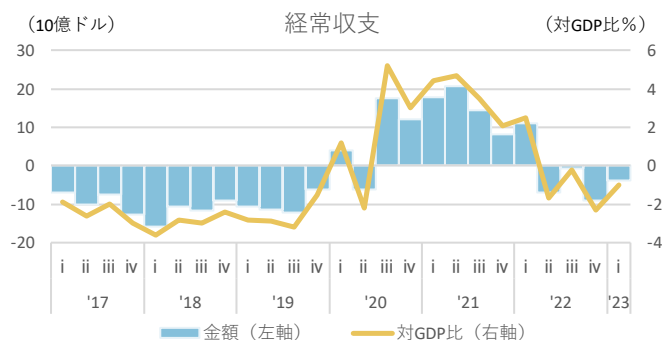
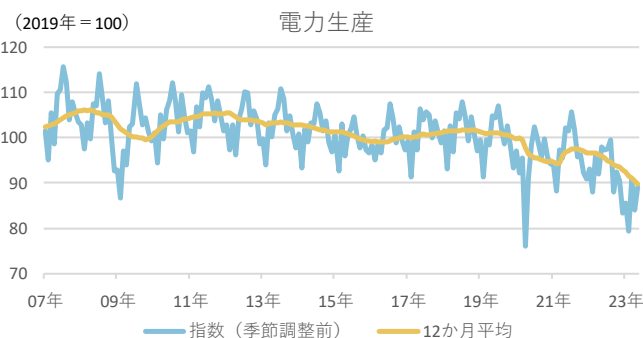
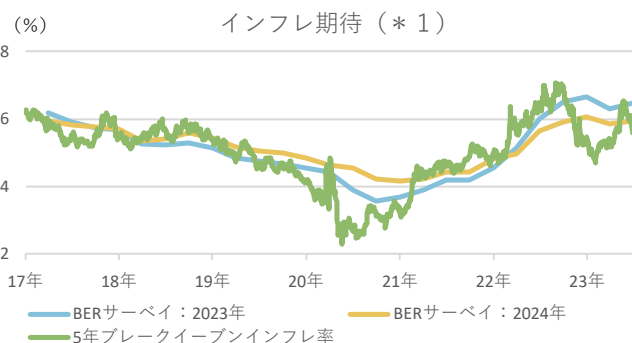
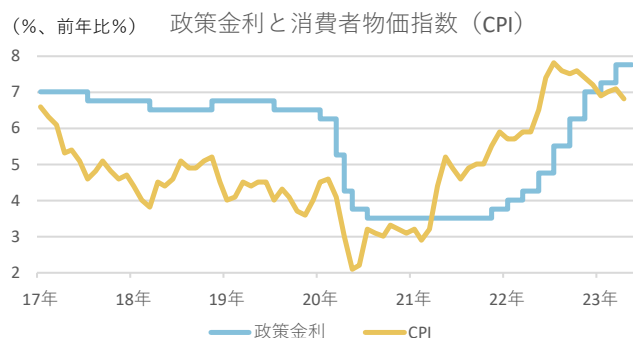
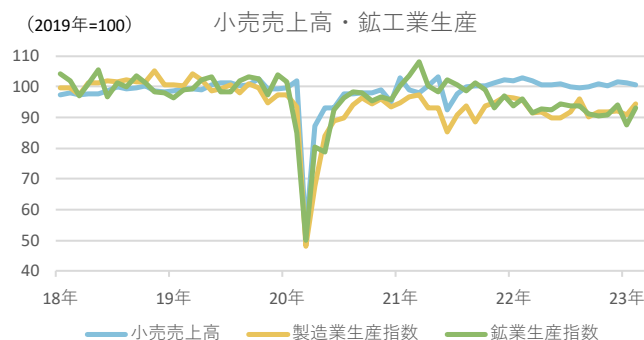
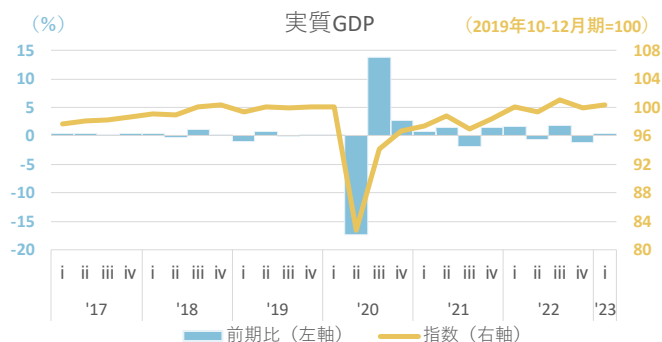
当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

南アフリカ為替週報

2023年7月20日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

<主要経済指標の推移>



* 1 : BERサーベイは南アフリカ経済調査局 (Bureau for Economic Research) による四半期ごとの調査。

経済アナリストや企業などが調査対象となっている。

ブレイクイーブンインフレ率は物価連動国債から算出される、市場が推測する期待インフレ率。

* 2 : 月次データ。ただし、2023年7月は1日から18日までの累計値。

(資料：南アフリカ準備銀行/南アフリカ統計局/南アフリカ経済調査局/ヨハネスブルク証券取引所/ブルームバーグ/みずほ銀行)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。